

健康ビッグデータを活用した健康づくり事業説明

1 事業目的

当課においては、平成30年度より県民の健診データを地域単位で集計・分析するシステム「ひょうご健康づくり支援システム」を開発し、県内の健康課題を地域別に可視化する取組を進めてきました。今年度は、分析結果をホームページ等で公表したり、分析結果を活用した市町向けの施策立案ワークショップを開催するなどデータの利活用を推進しています。

さらに、県民一人ひとりの個人レベルでの健診・医療ビッグデータを活用し、人口知能等を活用した解析を進め、疾病発症リスク、医療費予測、要支援・要介護になるリスク等の予測モデルの開発を進め、将来予測も含めたエビデンスベースの健康づくりの普及や施策を展開し、県民の健康寿命の延伸を目指します。

【県ホームページURL】

- 「ひょうご健康づくり支援システム」による分析結果

<http://web.pref.hyogo.lg.jp/kf17/kenkodukurishienshisutemu.html>

- 「健康データダッシュボード」

https://public.tableau.com/profile/.37533015#!/vizhome/Data_16037923753680/SMR

2 事業内容

令和3年度の主な事業内容としましては、下記のとおり、プロジェクト会議の開催、疾病発症予測モデルの構築を計画しています。

(1) 健康ビッグデータ利活用による健康づくり推進プロジェクト会議の開催

大学、民間企業、保険者等の関係者からなる検討会議を設置し、健康ビッグデータの解析手法や効果的な活用方法について検討を行う。

ア 構成メンバー 県、県立大学、民間企業、保険者、国保連、市町等

イ 開催回数 年3回程度

(2) 疾病発症予測モデルの開発

大学、民間企業に委託し、収集した健康ビッグデータを活用した疾病発症予測モデルを構築する。

ア データベースの構築・データクリーニング

イ 疾病発症予測モデル開発（認知症、大腿骨骨折、脳血管疾患、糖尿病、高血圧、高脂血症）

ウ 成果物の報告書作成

3 令和4年度以降の方向性

資料1-2にお示ししていますように、令和4年度以降には、令和3年度に構築した疾病発症予測モデルを活用した、システム開発を計画しています。個人の行動変容や自治体の施策に役立つシステム開発が実現できるよう、さらなる検討が必要です。そこで、各委員の皆様からのご意見をいただきたいと考えておりますので、よろしくお願いたします。